YYM100511

ADSLモデム/コンボモデム
セットアップ・ガイド

SoftBank

本文中の表記について

■モデム

本文中に記載されている「モデム」は、以下のモデムのことを指します。

・ADSLモデム

・コンボモデム8M

・コンボモデム12M

・「ソフトバンク」、「＝SoftBank」は当社またはグループ会社の登録商標または商標です。
・本冊子の一部または全部を無断複写・転載することを禁じます。
・本冊子の製品に対する記述は情報を提供する目的で書かれたもので、保証するものではありません。
・記載内容は2005年11月22日現在のものです。
・サービス内容および提供条件は、改善等のため予告なく変更することがあります。
・Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
・Mac OSは米国Apple Computer Inc.の商標または登録商標です。
・その他、記載されている会社名およびサービス名は、各社の登録商標および商標です。
・本冊子の本文中ではTM、®マークは明記しておりません。

目次

安全のために特に注意してください ―― 4
箱の中身を確認してください ―― 7
スプリッタの種類による接続方法 ―― 9
通信機器を接続する ―― 10
ADSLモデムの場合 ―― 11
コンボモデム8M／12Mの場合 ―― 15
電話機の回線種別設定を行う（プッシュ／ダイヤル） ―― 20
ネットワークの設定 ―― 22
パソコンの設定方法　Windows 98/Meの場合 ―― 23
設定の確認 ―― 27
パソコンの設定方法　Windows 2000の場合 ―― 28
パソコンの設定方法　Windows XPの場合 ―― 30
設定の確認　Windows 2000/XP共通 ―― 33
パソコンの設定方法　MacOS 9.1の場合 ―― 34
設定の確認 ―― 36
パソコンの設定方法　MacOS Xの場合 ―― 37
設定の確認 ―― 40
インターネット接続確認 ―― 41
ダイヤルアップからの設定変更 ―― 42
Outlook Expressの設定確認 ―― 43
トラブルシューティング ―― 45

安全のために特に注意してください

モデムを正しく使用するために、必ずお読みになり、内容をよく理解されたうえでお使いください。

ご利用前に必ずお読みください

●ご利用の際は本冊子、およびモデムに付属の冊子や印刷物などに従って正しい取り扱いをしてください。
●本製品の仕様は国内向けとなっています。海外ではご利用できません。
●本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害や、万が一本製品に登録された情報内容が消失してしまうことでの純粋経済損失につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
●本冊子に、他社製品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制あるいは保証するものではありません。
●本冊子、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

使用している警告表示の意味

⚠警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

使用している絵記号の意味

△	△は警告・注意を促す記号です。△の近くに具体的な警告内容が描かれています。 （例：⚠感電注意）
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。 ○の中や近くに具体的な禁止事項が描かれています。（例：⃠分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。 ●の近くに具体的な指示内容が描かれています。 （例：電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

分解禁止	**本製品を修理、分解、改造等、目的以外の使用をしないでください。** 火災や感電のおそれがあります。

電源プラグを抜く	**本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。衝撃を与えてしまった場合は、すぐに電源プラグを抜いてください。** そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり感電するおそれがあります。
禁止	**電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。** 電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
禁止	**電源コードを束ねたり、許容量以上の配線はおやめください。** 火災の原因となることがあります。
電源プラグを抜く	**本製品の内部に水が入ったり、本製品をぬらしたりした場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、BBテクノロジーにご連絡ください。** そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	**本製品内部に液体・金属・たばこの煙などの異物を入れないでください。**
電源プラグを抜く	**本製品の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、BBテクノロジーにご連絡ください。** そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	**本製品の通風孔をふさがないでください。次のような使い方はしないでください。** ●じゅうたんやカーペット(床暖房を含む)、布団などの上に置く ●テーブルクロスなどの布やレースを本製品に掛ける ●本棚、タンスの中、押し入れの中など風通しの悪い場所に置く ●紙、本などを載せたり立て掛けたりする 通風孔をふさぐと本製品の内部に熱がこもり、火災、機器故障の原因となることがあります。
強制	**電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグの本体を持って抜いてください。** 電源プラグのコードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	**本製品は場合により熱くなる場合がありますので、本製品の周辺に紙、布等燃えやすいものは置かないようにしてください。**
強制	**本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカーおよび周辺機器メーカーが提示する警告ならびに注意指示に従ってください。**
電源プラグを抜く	**煙が出たり変な臭いや音がしたら、パソコンおよび周辺機器の電源プラグを抜いてください。** そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり感電するおそれがあります。 お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠注意

禁止

本製品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。
人が死亡または重傷を追う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。

強制

電源ケーブルがコンセントに接続されているときには、濡れた手で本製品に触れないでください。
感電の原因となります。

水場での
使用禁止

本製品をふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高い所で設置および使用しないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

強制

電源プラグは、必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

強制

電源プラグは、ほこりが付着してないことを確認してからコンセントに差し込んでください。
ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

禁止

直射日光の当たる所や、ストーブ、ヒーターなどの発熱器のそばなど、温度の高い所に置かないでください。
内部の温度が上がり、火災や機器故障の原因となることがあります。

強制

本製品の上に物を載せないでください。
火災の原因となることがあります。

強制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
人体などの静電気は本製品を破損、またはデータを消失、破損させるおそれがあります。

強制

暴風雨の際は決して電話回線を操作しないでください。また、雷の際はモデムやパソコンの電源をコンセントから抜いてください。
落雷によって、火災や感電、機器故障の原因となることがあります。

強制

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。

箱の中身を確認してください

モデムが届いたら、箱の中身が揃っているかどうか確認してください。また、お客様でご用意いただくものを確認してください。万一、足りないものがあった場合は、SoftBank BB インフォメーションセンターまでご連絡ください。

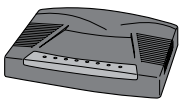
モデムの箱に入っているもの

※製品の外観は実際と異なる場合があります。

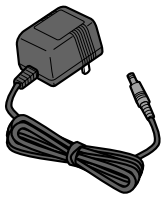
次の製品がそろっているか確認してください。

ADSLモデム

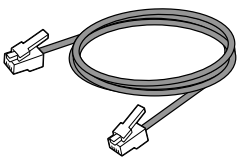
コンボモデム



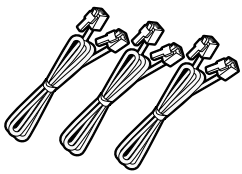
モデム 本体（どちらか１台）



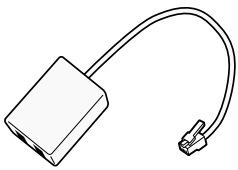
電源アダプタ（１個）



LANケーブル（１本）



モジュラーケーブル（3本）



スプリッタ（１個）(注)

(注)…コンボモデム12Mはスプリッタが内蔵されています。モデムの箱にスプリッタは入っていませんので、ご注意ください。

お客様にご用意いただくもの

●パソコン
（Windows 98/98SE/Me/2000/XP、MacOS（Open Transport2.7以上）でのご利用を推奨）

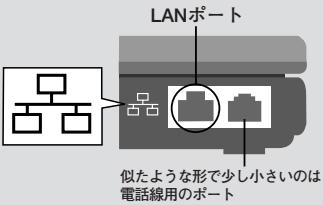
●10Base-Tもしくは100Base-TXに対応したLANカード
（ノートパソコンの場合、PCカードタイプのLANアダプタかUSBポート接続のLANアダプタが必要）

※ブロードバンドコンテンツを快適にお使いいただくためには、3年以内に発売されているパソコンを推奨しております。
※Windows 95につきましては、LANアダプタなどのインストールの簡便さやネットワーク機能の仕様、マイクロソフト社のサポートが終了していることなどから、サポート対象外とさせていただきます。
※Macintoshでは、Open Transportのバージョンが2.7以上でのご利用を推奨しております。Open Transportのバージョンが2.7以上でない場合は、OSあるいはOpen Transportをアップデートしてください。Open Transportのバージョンが2.7以上となるのは、MacOS 9.1以上あるいはMacOS X以上の場合です。それ以前のバージョンでもご利用いただける場合はありますが、接続を保証するものではありませんのでご了承願います。
※TCP/IPプロトコルおよびDHCPによってIPアドレスが取得できるネットワーク設定が可能なOSであれば、Linux等のPC UNIXやWindows NTなどのOSでも利用可能ですが、上記OS以外はサポート外となります。
※対応は日本語OSのみになります。

Point LANアダプタとは、コンピュータをLAN（オフィス、家庭内など限定されたエリアで使用するネットワーク）に接続するために必要な機器のことです。LANアダプタはパソコン本体に内蔵されていることもありますが、そうでないパソコンには後から取り付ける必要があります。その場合はカード型のLANアダプタをパソコン本体の拡張スロット（差し込み口）に挿入する方法が一般的です。このようなLANアダプタはLANカードと呼ばれることもあります。

■お使いのパソコンがLANアダプタ内蔵かどうか確認する

お使いのパソコンがLANアダプタ内蔵かどうかは、LANポートの有無で判断できます。パソコン本体の背面や側面にLANケーブルを接続するLANポートが用意されていれば、LANアダプタ内蔵です。たいていの場合、LANポートには図のようなマークがついているので、こちらを目印にすると良いでしょう。LANアダプタ内蔵かどうか、ご自分で判断が難しい場合には、パソコンのメーカーにお問い合わせください。



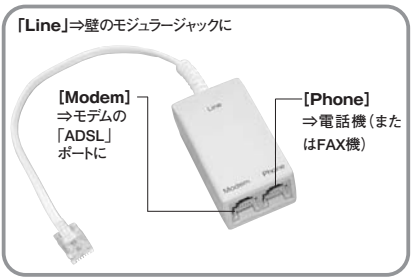
※ポートの位置や見た目は、お使いのパソコンによって多少異なる場合があります。

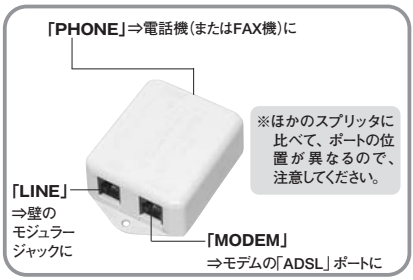
スプリッタの種類による接続方法

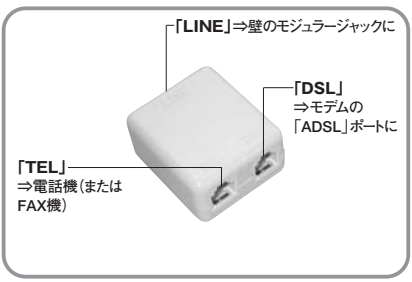
※コンボモデム12Mには
同梱されていません。

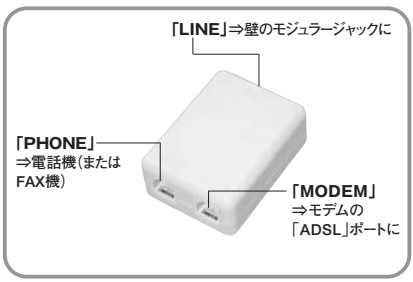
モデムに同梱のスプリッタは、提供時期によって形状やポートの名称が異なります（性能は同等です）。ここでは各種スプリッタのポート名と、それぞれどこに接続するかを説明します。

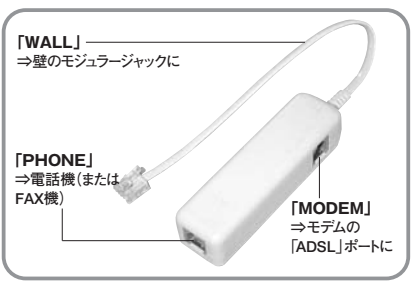
※ADSLの接続がうまくいかない場合は、スプリッタの接続先が違っていることも考えられます。
ご注意ください。











※スプリッタとモデムや電話機（またはFAX機）をつなぐには、電話機に使用するモジュラーケーブルを接続します。必要なケーブルはモデムに同梱されておりますので、そちらをご利用ください。

通信機器を接続する

モデムの種類によって、通信機器の接続方法は異なります。
ご利用のモデムの説明をご覧ください。

・ADSLモデムの場合 …… P11
・コンボモデム8M／12Mの場合…… P15

通信機器を接続する際のご注意

接続の際は、あらかじめ次の点にご注意ください。

■接続する機器（モデム、パソコン、電話機、あればBBフォン・ターミナルアダプター）の電源は、すべて切っておいてください。

■宅内にモジュラージャックが複数ある場合、モデムを接続しないモジュラージャックには、他の機器類を一切接続しないでください。ADSLサービスが使えなかったり、通話時に雑音が入ったりする原因となります。

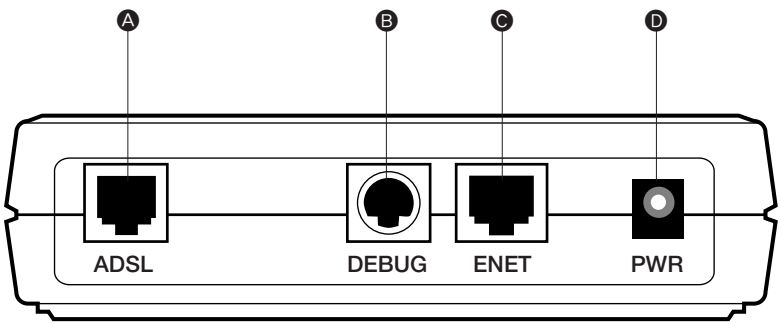
Point お使いのスプリッタの種類によっては、ポートの名称が以降の説明と異なり、それぞれ**「LINE」ポート→「DSL」ポート／「PHONE」ポート→「TEL」ポート／「LINE」コード→「WALL」コード**となる場合もあります。ご注意ください。詳しくは9ページの「スプリッタの種類による接続方法」をご参照ください。

⚠注意	●本サービスはベストエフォート型のサービスです。下り最大速度はBBテクノロジーが採用する技術の論理最大速度であり、電話局からの距離やお客様宅内の環境、今後のアマチュア無線との干渉対策などにより最大速度を保証するものではございません。また開通までにお時間をいただく場合やサービスをご利用いただけない場合がございます。 ●ADSLとして使用する回線で次のようなシステムを利用されている場合は、BBテクノロジーの提供するADSLサービスが利用できない、あるいは不安定になることがあります。 ホームテレフォン、ビジネスフォン、内線電話、ドアフォンに接続された電話機、ダイヤルイン追加番号、信号監視サービス これらをご利用の際は、回線工事をするか、新しく回線を用意するなど、新規にお申し込みが必要となる場合があります。また、ノーリンギングサービス（ガス・水道の検針等）や警備保障をご利用の方は、サービスのご使用にあたって対応工事が必要になる場合があります。詳しくはそれぞれの事業者にお問い合わせください。 ●「オフトーク通信サービス」をご利用の場合は、オフトーク通信サービスを利用した放送等にノイズが入ることがあります。 ●電話局舎からお客様宅内までの距離が約4km以上離れている場合は、上位サービスもしくはリーチDSLサービスをお勧めいたしております。 ※サービスの変更には、NTT局内工事料および、BBテクノロジー指定のサービス変更手数料が必要となります。あらかじめご了承ください。 ※ご利用のサービスによっては、リーチDSLをお使いいただけない場合があります。詳しくは、SoftBank BB インフォメーションセンターまでお問い合わせください。

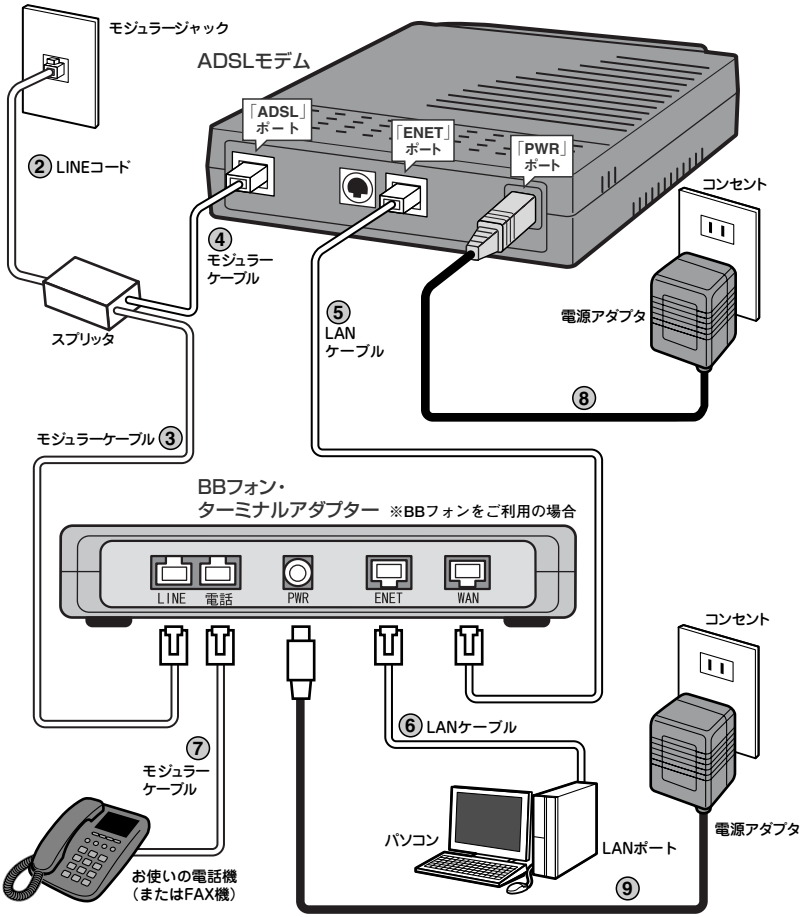
ADSLモデムの場合

背面パネル/コネクタ

Ⓐ ADSL　：スプリッタ経由でモジュラージャックを接続します。
Ⓑ DEBUG　：（通常は使用しません）
Ⓒ ENET　：パソコンと接続します。
Ⓓ PWR　：電源アダプタを接続します。



通信機器の接続方法



※接続する機器（モデム、パソコン、電話機、BBフォン・ターミナルアダプター）の電源は、あらかじめすべて切っておいてください。
※宅内にモジュラージャックが複数ある場合、モデムを接続しないモジュラージャックには、他の機器類を一切接続しないでください。ADSLサービスが使えなかったり、通話時に雑音が入ったりする原因となります。

Point BBフォン付きのサービスをご利用の場合は、ADSLモデムにBBフォン・ターミナルアダプターを接続します。BBフォン・ターミナルアダプターについて、詳しくはBBフォン・ターミナルアダプターに同梱の「BBフォン・ターミナルアダプター セットアップ・ガイド」をご覧ください。

① 電話機（またはFAX機）の取り外し

ご使用中の電話機（またはFAX機）を接続しているモジュラーケーブルを、モジュラージャックから取り外してください。

② スプリッタの取り付け

スプリッタのLINEコードを使用して、スプリッタとモジュラージャックを接続します。

③ BBフォン・ターミナルアダプターとスプリッタの接続

モジュラーケーブルを使用して、BBフォン・ターミナルアダプターの「LINE」ポートとスプリッタの「PHONE」ポートを接続します。

【BBフォンをご利用でない場合】
BBフォン・ターミナルアダプターの代わりに、電話機（またはFAX機）を接続します。

④ モデムとスプリッタの接続

モジュラーケーブルを使用して、モデムの「ADSL」ポートとスプリッタの「MODEM」ポートを接続します。

⑤ モデムとBBフォン・ターミナルアダプターの接続

同梱のLANケーブル*を使用して、モデムの「ENET」ポートとBBフォン・ターミナルアダプターの「WAN」ポートを接続します。

＊BBフォン・ターミナルアダプターに同梱のLANケーブルでもかまいません。

【BBフォンをご利用でない場合】
BBフォン・ターミナルアダプターの代わりに、パソコンを接続します。

⑥ BBフォン・ターミナルアダプターとパソコンの接続 ※BBフォンご利用の場合のみ

BBフォン・ターミナルアダプターに同梱のLANケーブル*を使用して、BBフォン・ターミナルアダプターの「ENET」ポートとパソコンのLANポート（LANアダプタまたはLANカードの差込口）を接続します。

＊モデムに同梱のLANケーブルでもかまいません。

⑦ BBフォン・ターミナルアダプターと電話機の接続 ※BBフォンをご利用の場合のみ

①で取り外したモジュラーケーブルを使用して、BBフォン・ターミナルアダプターの「電話」ポートと電話機（またはFAX機）を接続します。

⑧ モデムの電源投入

同梱の電源アダプタをモデムの「PWR」ポートに接続し、コンセントに差し込みます。

＊モデム、BBフォン・ターミナルアダプター、電話機、パソコンなどの電源アダプタは、それぞれの機器に正しく接続してください。あやまってほかの製品のものを接続すると、機器の誤動作や故障、発熱の原因となり、たいへん危険です。

⑨ BBフォン・ターミナルアダプターの電源投入 ※BBフォンをご利用の場合のみ

BBフォン・ターミナルアダプターに同梱の電源アダプタをBBフォン・ターミナルアダプターの「PWR」ポートに接続し、コンセントに差し込みます。

⑩ パソコンの電源投入

モデムの「WLK」ランプ、BBフォン・ターミナルアダプターの「ADSL接続中」ランプが点灯してから、パソコンの電源を入れてください。

⚠注意	上記のセットアップ手順は、モデム設置等だけでなく、通常使用される際も常にこの順序で行ってください。

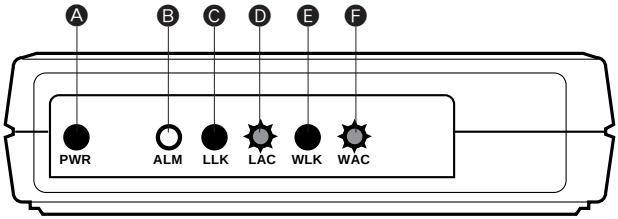
LEDランプの点灯確認

通信機器の接続が完了したら、LEDランプの点灯状態を確認してください。正常に接続されていれば、「PWR」、「LLK」、「WLK」の各ランプが点灯します。このとき、データの送信があると、「LAC」、「WAC」のランプが点滅します。

※BBフォン・ターミナルアダプターのLEDランプについて、詳しくはBBフォン・ターミナルアダプターに同梱の「BBフォン・ターミナルアダプター セットアップ・ガイド」をご確認ください。

■正常な状態

○：消灯
●：点灯
☀：ときどき点滅



ⒶPWR：モデムに電源が供給されている場合に点灯します。このランプが消えている場合は電源アダプタの接続を確認してください。

ⒷALM：エラーが発生した場合に点灯します。通常は点灯していません。

ⒸLLK：イーサネットが接続されている場合に点灯します。パソコン（LANポート）とモデムが接続されており通信可能な状態で点灯します。

ⒹLAC：モデムを通じてイーサネットでデータの送受信が行われた場合に点滅します。

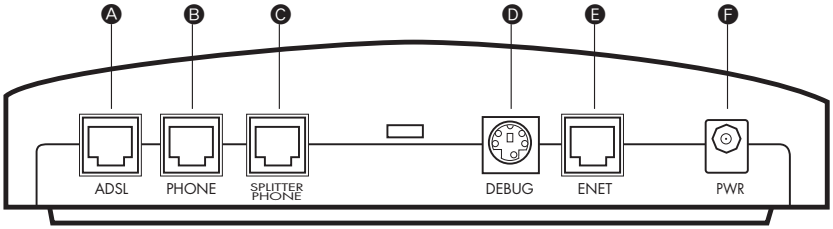
ⒺWLK：ADSLに接続されている場合に点灯します。電話線が接続されていなかったり、局側から信号が届いていなかったりする場合は点滅します。

ⒻWAC：モデムを通じてデータの送受信が行われた場合に点滅します。

Point 点灯状態が正常でない場合は、45ページからの「トラブルシューティング」をご覧ください。

コンボモデム8M／12Mの場合

背面パネル/コネクタ



※Ⓒはコンボモデム12Mにはありません。

Ⓐ ADSL：
スプリッタ経由でモジュラージャックと接続します。
(注)…コンボモデム12Mの場合は外付のスプリッタは使いません。

Ⓑ PHONE：
電話機(またはFAX機)と接続します。

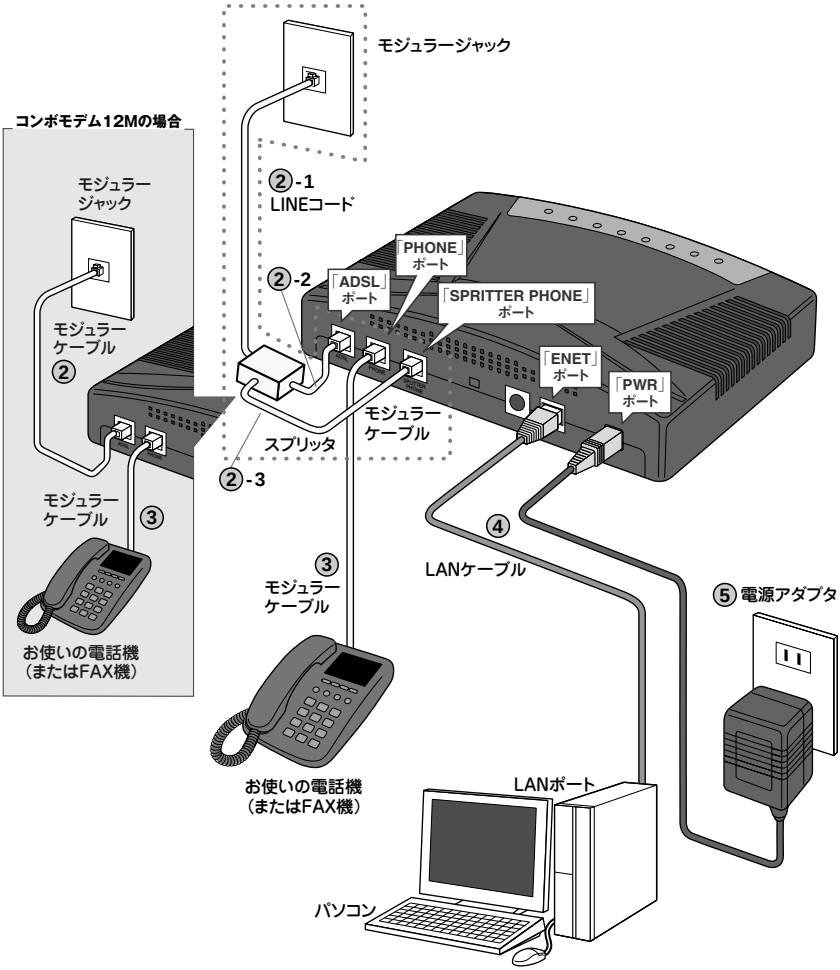
Ⓒ SPLITTER PHONE：
スプリッタの「PHONE」ポートと接続します。
(注)…コンボモデム12Mにはありません。

Ⓓ DEBUG：
(このポートは使いません。)

Ⓔ ENET：
パソコンと接続します。

Ⓕ PWR：
電源アダプタを接続します。

通信機器の接続方法



※接続する機器（モデム、パソコン、電話機）の電源は、あらかじめすべて切っておいてください。

※宅内にモジュラージャックが複数ある場合、モデムを接続しないモジュラージャックには、他の機器類を一切接続しないでください。ADSLサービスが使えなかったり、通話時に雑音が入ったりする原因となります。

① 電話機（またはFAX機）の取り外し

ご使用中の電話機（またはFAX機）を接続しているモジュラーケーブルを、モジュラージャックから取り外してください。

② モデムとモジュラージャックの接続

【コンボモデム8Mの場合】
モデムとモジュラージャックの間に、スプリッタを取り付けます。

＊スプリッタは、提供時期によって形状やポートの名称が異なります。詳しくは9ページの「スプリッタの種類による接続方法」をご覧ください。

1.スプリッタのLINEコードを使用して、スプリッタとモジュラージャックを接続します。

2.同梱のモジュラーケーブルを使用して、モデムの「ADSL」ポートとスプリッタの「MODEM」ポートを接続します。

3.同梱のモジュラーケーブルをもう1本使用して、モデムの「SPLITTER PHONE」ポートとスプリッタの「PHONE」ポートを接続します。

【コンボモデム12Mの場合】
同梱のモジュラーケーブルを使用して、モデムの「ADSL」ポートとモジュラージャックを接続します。

③ モデムと電話機の接続

①で取り外したモジュラーケーブルを使用して、モデムの「PHONE」ポートと電話機（またはFAX機）を接続します。

④ モデムとパソコンの接続

同梱のLANケーブルを使用して、モデムの「ENET」ポートとパソコンのLANポート（LANアダプタまたはLANカードの差込口）を接続します。

⑤ モデムの電源投入

同梱の電源アダプタをモデムの「PWR」ポートに接続し、コンセントに差し込みます。

＊モデム、電話機、パソコンなどの電源アダプタは、それぞれの機器に正しく接続してください。あやまってほかの製品のものを接続すると、機器の誤動作や故障、発熱の原因となり、たいへん危険です。

⑥ パソコンの電源投入

モデムの「WLK」（または「ADSL接続可」）ランプが点灯してから、パソコンの電源を入れてください。

⚠注意	上記のセットアップ手順は、モデム設置等だけでなく、通常使用される際も常にこの順序で行ってください。

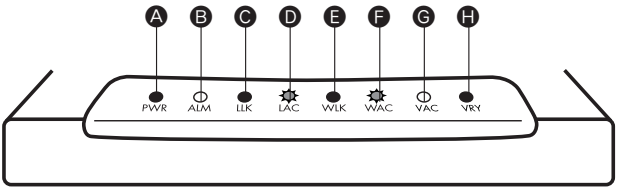
LEDランプの点灯確認

モデムは、製造時期によって前面のLEDランプが日本語表記になっているものもあります。表記が異なるだけで、英文字表記のLEDランプと機能は同一です。

モデムの電源アダプタをコンセントに接続すると、すべてのLEDランプが約30秒間点灯します。電源投入1〜2分後に「PWR」「WLK」「VRY」（または「電源」「ADSL接続可」「BBフォン接続可」）のLEDランプが点灯すれば、回線は正常に機能しています。

■正常な状態

○：消灯
●：点灯
☀：ときどき点滅



Ⓐ PWR（電源）：
モデムに電源が供給されているときに点灯します。点灯していない場合は、電源アダプタの接続を確認してください。

Ⓑ ALM（アラーム）：
エラーが発生したときに点灯します。点灯したままになっている場合は、「トラブルシューティング」（45ページ）を参照してください。

Ⓒ LLK（PC接続中）：
イーサネットが正常に接続されているときに点灯します。なお、ケーブルの接続が正常であっても、パソコンの電源が入っていない場合は点灯しません。

Ⓓ LAC（データ通信中）：
イーサネット上で通信が行われているときに点滅します。イーサネット上で通信が行われていないときには点滅しません。

Ⓔ WLK（ADSL接続可）：
ADSLに正常に接続されているときに点灯します。電話線が接続されていなかったり、電話局側から信号が届いていなかったりする場合は点灯しません。

Ⓕ WAC（ADSL接続中）：
モデムを通じて通信が行われているときに点滅します。通信が行われていないときには点滅しません。

Ⓖ VAC（BBフォン利用中）：

受話器をあげたとき、またはBBフォンで通話を行っているときに点灯します。また、BBフォンからの着信があり、呼び出し音が鳴っている状態では点滅します。一般の電話回線網をご使用の場合は点灯も点滅もしません。

Ⓗ VRY（BBフォン接続可）：

BBフォンを使った通話が可能なときに点灯します。点灯していないときは、BBフォンでの通話はできません。

※「VRY」（または「BBフォン接続可」）のLEDランプが点灯していない状態でも、パソコンを使ったデータ通信は可能です（点灯状態が正常でない場合は、45ページの「トラブルシューティング」をご覧ください）。

※データ送受信中にはLEDランプの「LAC」「WAC」（または「データ通信中」「ADSL接続中」）が点滅します。

※ご使用中、「WLK」（または「ADSL接続可」）のLEDランプがときどき点滅することがありますが、通話や通信には影響ありません。

電話機の回線種別設定を行う(プッシュ／ダイヤル)

通信機器の接続が完了したら、必ずお使いの電話機（またはFAX機）で、回線種別設定を行ってください。回線種別設定が正しく行われていないと、次のような電話サービスをご利用いただけないことがあります。

※ADSL 電話加入権不要タイプをご利用のお客様は、次のような電話サービスを利用した通話の発信はできません。

- **「110」や「119」などの緊急通報および一部の3桁番号**
- **「0120」や「0570」、「0800」、「0990」で始まるフリーダイヤルやナビダイヤル等の電話サービス**
- **相手先電話番号の前に「0000」（ゼロを4回）を付けたBBフォン以外の電話サービスでの通話**

※BBフォン以外の電話サービスについての詳細は「BBフォン サービスご利用ガイド」でご確認ください。

回線種別について

加入電話（NTT、日本テレコム等）の回線種別（電話回線の種類）には、「プッシュ（トーン）回線」と「ダイヤル（パルス）回線」の2種類があります。ご利用の回線種別がどちらなのかは、回線事業者（NTT、日本テレコム等）からの「ご利用明細」でご確認ください。

- 「ご利用明細」に「プッシュ回線利用料」と記載されている場合　→ **プッシュ回線**
- 〃　何も記載がない場合　→ **ダイヤル回線**

1. 回線事業者(NTT、日本テレコム等)からの「ご利用明細」で、ご利用の加入電話の回線種別を確認します。

2. 1.で確認した回線種別に合わせて、電話機の回線種別設定(＊注)を行う。

（＊注）…回線種別の設定方法は、ご利用の電話機によって異なります。電話機に付属の取扱説明書をご確認いただくか、電話機メーカーまでお問い合わせください。

※電話機の機種によっては、「自動」や「AUTO」など、自動的に回線種別を調べて設定する機能を持つものもありますが、こうした機種をご利用の場合も、必ず手動で回線種別を設定してください（お使いの環境によっては、自動設定の機能では回線種別が正しく設定できない場合もあります）。

3. 回線種別設定が完了したかご確認ください。

電話がかかり、音声が正しく聴こえれば、電話サービスは間違いなくご利用いただけます。

※通話料はお客様負担となります。あらかじめご了承ください。

※たとえば、「177」などに電話をかけていただき、アナウンスが正しく聴こえるかお試しください。

Point

音声が正しく聴こえない場合

上記の設定を行っても音声が正しく聴こえない場合は、電話サービスがご利用いただけていません。こうした場合は、手順1.の電話機の回線種別設定が間違っていることがまず考えられます。再度、電話機の回線種別設定をご確認ください。

手順2.で回線種別が正しく設定されているにも関わらず、電話サービスがご利用いただけない場合は、電話機で次のような設定を行っている可能性が考えられます。

- ACR（LCR）機能を利用している
- 電話機の解除番号が影響している
- 短縮ダイヤルを利用している

⚠注意	回線種別設定の操作は、電話機の電源を入れ直した場合や停電の発生後にも、必ず行ってください。

ネットワークの設定

ネットワークの設定を行う場合は、以下のページをご参照ください。

パソコンの設定方法　Windows 98/Meの場合 ―― 23
設定の確認 ―― 27
パソコンの設定方法　Windows 2000の場合 ―― 28
パソコンの設定方法　Windows XPの場合 ―― 30
設定の確認　Windows 2000/XP共通 ―― 33
パソコンの設定方法　MacOS 9.1の場合 ―― 34
設定の確認 ―― 36
パソコンの設定方法　MacOS Xの場合 ―― 37
設定の確認 ―― 40
インターネット接続確認 ―― 41
ダイアルアップからの設定変更 ―― 42
Outlook Expressの設定確認 ―― 43

⚠注意	※LANアダプタ（LANカード）の取り付けとドライバのインストールは、ご使用の機器メーカーの指示に従い、あらかじめ行っておいてください。10Base-Tもしくは100Base-TXに対応したLANインタフェースを内蔵したパソコンの場合はそれが利用可能な状態であることを確認しておいてください。

⚠注意	※セキュリティについて ADSL回線でインターネットに常時接続をするようになると、外部ネットワークから不正にアクセスされコンピュータが操作されてしまうなどの可能性が高くなります。 BBテクノロジーの提供するADSLサービスでは、有線LANによる接続はパソコン1台のみを推奨しておりますが、ファイルやフォルダを覗かれないようにするためには、(1) パソコンのネットワークの設定でファイルやフォルダの「共有」を禁止したり、(2) ファイヤーウォール機能のあるウイルス対策ソフトを導入したり、(3) ブロードバンドルーターを利用したりすることをお勧めいたします。

Win 98/Me ▶ p.23　Win 2000 ▶ p.28　Win XP ▶ p.30

パソコンの設定方法 Windows 98/Meの場合

LANアダプタ（LANカード）の取り付けとドライバのインストールは、ご使用の機器メーカーの指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

1. コントロールパネルを開く

Windows 98/Meを起動して「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」を選択して、コントロールパネルを開きます。

2. ネットワークのプロパティを開く

コントロールパネルから「ネットワーク」をクリックまたはダブルクリックして開きます。

Point Windows Meにおいて、コントロールパネルに「ネットワーク」が表示されない場合は、画面に表示されている「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」という個所をクリックしてください。

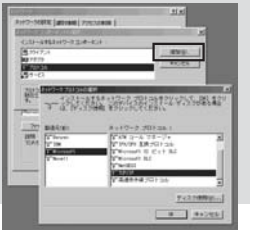
3. TCP/IPのプロパティを開く

「現在のネットワークコンポーネント」という一覧の「TCP/IP」あるいは「TCP/IP -> <LANカードの名前>」という項目をクリックして選択し、「プロパティ」をクリックします。

Point 一覧に「TCP/IP-> ダイヤルアップ アダプタ」という項目が表示されている場合がありますが、これはモデムで使用するLANカードの設定とは無関係です。そのままにしておいてかまいません。

Point 一覧に「TCP/IP」あるいは「TCP/IP-> <LANカードの名前>」という該当項目がない場合は、「追加」をクリックしてください。

「インストールするネットワークコンポーネント」の「プロトコル」を選択して「追加」をクリックします。「製造元」は「Microsoft」を選択し、「ネットワーク プロトコル」は「TCP/IP」を選択して「OK」をクリックしてください。これで一覧にTCP/IPが追加されます。



4. IPアドレスの設定

「TCP/IPのプロパティ」が開いたら「IPアドレス」タブをクリックして画面を切り替え、「IPアドレスを自動的に取得」をクリックして選択します。

5. DNSの設定

「DNS設定」タブをクリックして画面を切り替え、「DNSを使わない」をクリックして選択します。

6. ゲートウェイの設定

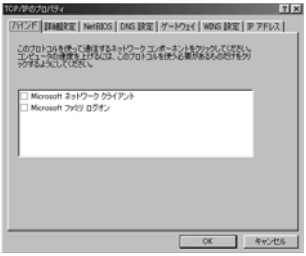
「ゲートウェイ」タブをクリックして画面を切り替え、「インストールされているゲートウェイ」に何も登録されていないことを確認します。

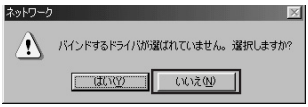
この欄に何か登録されている場合は、そのアドレスを選択してから「削除」をクリックして削除してください。

7. セキュリティの設定

「バインド」タブをクリックして画面を切り替えて、「Microsoftネットワーククライアント」、「Microsoftネットワーク共有サービス」あるいは「Microsoftファミリログオン」という項目があった場合は、これらのチェックを外します。

この設定の後に「バインドするドライバが選択されていません。選択しますか？」という画面が表示されることがあります。その場合は「いいえ」を選択してください。





さらに「NetBIOS」タブをクリックして画面を切り替えて、「TCP/IP上でNetBIOSを使用可能にする」のチェックを外してください。この項目が変更できない場合はそのまま次に進んでください。

8. TCP/IPのプロパティを閉じる

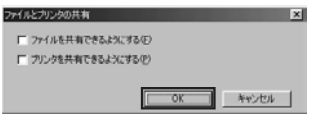
IPアドレス、DNS設定、ゲートウェイなどの設定を確認したら「OK」をクリックしてTCP/IPのプロパティを閉じます。

9. Microsoftネットワーククライアントの削除

「Microsoftネットワーククライアント」を選択し、「削除」をクリックします。

10. ファイルとプリンタの共有を外す

「ファイルとプリンタの共有」をクリックして「ファイルを共有できるようにする」、「プリンタを共有できるようにする」のチェックを外して「OK」をクリックしてください。



11. ネットワークのプロパティを閉じる

ネットワークのプロパティに戻ったら、「OK」をクリックします。

ご使用のパソコンによってはWindowsのCD-ROMをセットするようにメッセージが表示されることがあります。その場合は画面の指示に従って操作してください。

12. パソコンの再起動

最後に「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。「はい」をクリックしてパソコンを再起動してください。

ネットワークの設定変更が必要でなかった場合は、再起動を促すメッセージは表示されません。

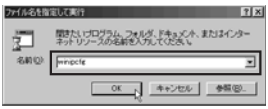
Win 98/Me ▶ p.27

設定の確認 Windows 98/Meの場合

Windows 98/Meでパソコンとモデムが正しく接続されているかどうかを確認したい場合には次のようにしてください。

1.「winipcfg」の起動

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」の入力欄に「winipcfg」と入力し「OK」をクリックします。



「winipcfg」は半角文字で入力

2. IPアドレスの確認

IP設定画面が表示されたら、IPアドレスが取得できているかどうかを確認します。

「Ethernetアダプタ情報」が「PPP Adapter.」と表示されている場合は、右端の▼マークをクリックして現在使用しているLANアダプタ（LANカード）名に変更してください。

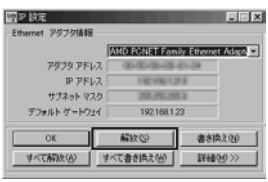
IPアドレスが「218.…」「219.…」「220.…」「221.…」あるいは「43.…」で始まっていれば正常です。

ここに「PPP Adapter.」と表示されている場合は、▼マークをクリックして現在使用しているLANカード名に変更

3.「winipcfg」を閉じる

設定が確認できたら「OK」をクリックして「winipcfg」を閉じてください。

もし、IPアドレスやデフォルトゲートウェイが正常に設定されていない場合は、パソコンの電源を切ってから電源やケーブル等の接続を再確認してください。



IPアドレスが「0.0.0.0」となっていたり「デフォルトゲートウェイ」が空白になっていたりする場合はまず「解放」をクリックして、次に「すべて書き換え」をクリックしてください。この操作でIPアドレスとデフォルトゲートウェイに数字が表示されれば正常です

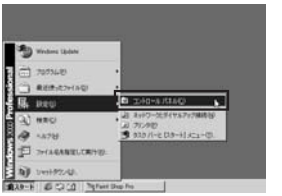
Win 98/Me ▶ p.41

パソコンの設定方法 Windows 2000の場合

LANアダプタ（LANカード）の取り付けとドライバのインストールは、ご使用の機器メーカーの指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

1. コントロールパネルを開く

Windows 2000を起動して「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」を選択してコントロールパネルを開きます。



2. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開く

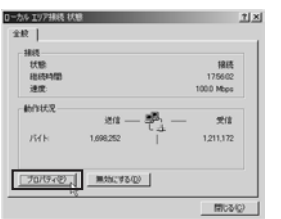
コントロールパネルの「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックまたはダブルクリックして開きます。

3. 「ローカルエリア接続」を開く

「ネットワークとダイヤルアップ接続」から「ローカルエリア接続」をクリックまたはダブルクリックして開きます。

4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」を開く

「ローカルエリア接続状態」画面が開いたら「プロパティ」をクリックします。



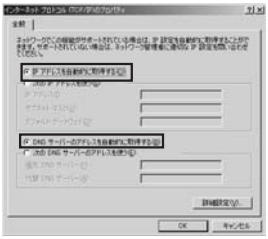
5. インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティを開く

「ローカルエリア接続のプロパティ」を開いたら一覧に「インターネット プロトコル（TCP/IP）」という項目があるので、これをクリックして選択し「プロパティ」をクリックしてください。

一覧に表示されている項目のチェックマーク（☑マーク）は消さないでください

6. IPアドレスとDNSの設定

「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」が開いたら、「IPアドレスを自動的に取得する」と、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックして選択してください。



7. DHCP設定の確認

IPアドレスとDNSの設定を確認したら「詳細設定」をクリックして「TCP/IP詳細設定」を開きます。「TCP/IP詳細設定」が開いたら「IP設定」タブをクリックして画面を切り替えて、一覧に「DHCP有効」という表示があるか確認します。

8. NetBIOS over TCP/IPを無効にする

「WINS」タブで「NetBIOS over TCP/IPを無効にする」をチェックします。

9. インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティを閉じる

IPアドレスとDNSの設定を確認したら、「OK」をクリックして「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」を閉じます。

10. 「ローカルエリア接続のプロパティ」を閉じる

「ローカルエリア接続のプロパティ」に戻ったら「OK」をクリックして閉じます。これで設定は完了です。不要なネットワークコンポーネントを削除する場合は、31ページの8を参考にしてください。

パソコンの設定方法 Windows XPの場合

LANアダプタ（LANカード）の取り付けとドライバのインストールは、ご使用の機器メーカーの指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

1. コントロールパネルを開く

「スタート」→「コントロールパネル」でコントロールパネルを開きます。

2. クラシック表示への切り替え

「コントロールパネル」が開いたときに「カテゴリ表示」になっている場合は、「クラシック表示に切り替える」を選択し、クラシック表示に切り替えてください。

3.「ネットワークへの接続」を開く

「コントロールパネル」が表示されたら、そこから「ネットワーク接続」を選択しクリックします。

4.「ローカルエリア接続」を開く

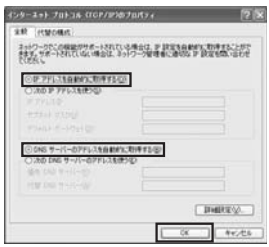
「ネットワーク接続」をクリックすると表示される「ネットワーク構成」画面で、「ローカルエリア接続」をダブルクリックしてプロパティを表示します。

5. ローカルエリア接続のプロパティ

ローカルエリア接続のプロパティの「全般」タブから、画面中央にある「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

6.「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」の設定

「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」の設定画面では、まず「全般」を選び、「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックしてチェックマークを付けたあと、「OK」をクリックして画面を閉じてください。



7. セキュリティの設定

「詳細設定」をクリックして、「TCP/IP詳細設定」を開き、「IP設定」タブで「DHCP有効」となっていることを確認します。また、「WINS」タブで「NetBIOS over TCP/IPを無効にする」をチェックし、「OK」をクリックして「TCP/IP詳細設定」を閉じます。

8. 不要なネットワークコンポーネントの削除

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面に戻り、「OK」をクリックします。「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が開いたら、「Microsoftネットワーク用クライアント」「Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共用」等、使用しないネットワークコンポーネントを選んで「削除」をクリックします。

Win XP ▶ p.33

9. パソコンの再起動

確認の画面が出たら「はい」をクリックし、「今すぐコンピュータを再起動しますか？」と聞かれたら不要なネットワークコンポーネントをすべて削除するまで「いいえ」をクリックして作業を続けてください。すべての作業が終わったら「今すぐコンピュータを再起動しますか？」の問いに「はい」をクリックしてパソコンを再起動してください。

Point Windows XPにはネットワークを利用して別のパソコンを操作するリモートアシスタンス/リモートデスクトップという機能があります。セキュリティに注意する場合は、この機能もオフにした方がいいでしょう。「スタート」メニュー→「コントロールパネル」を選択して、「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」（クラシック表示の場合は直接「システム」）を実行してください。「システムのプロパティ」が開いたら「リモート」タブを選択して「このコンピュータからリモートアシスタンスの招待を送信することを許可する」と「このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する」のチェックを外して「OK」をクリックしてください。

Win XP ▶ p.33

設定の確認 Windows 2000/XP共通

パソコンとモデムが正しく接続されているかどうか確認したい場合、Windows 2000/XPではコマンドプロンプトを起動して操作します。
次の手順に従って確認を行ってください。

1. コマンドプロンプトの起動

「スタート」メニューから「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンド プロンプト」を選択して、コマンドプロンプトを開きます。

2. ipconfigコマンドの実行

コマンドプロンプトが開いたら、キーボードから「ipconfig」と入力して［Enter］キーを押します。ipconfigコマンドを実行すると、

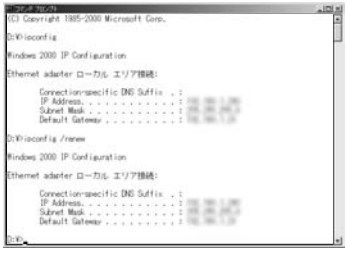
IP Address
Subnet Mask
Default Gateway

の各情報が表示されます。

IP Addressが「218.…」「219.…」「220.…」「221.…」あるいは「43.…」で始まっていれば正常です。

IP AddressとDefault Gatewayが正しく設定されていない場合は、半角英数文字で「ipconfig /renew」と入力して［Enter］キーを押してください。

それでもうまく設定されない場合は、パソコンの電源を切ってから電源やケーブル等の接続を再確認してください。



Win 2000/XP ▶ p.41

パソコンの設定方法 MacOS 9.1の場合

1. 機能拡張フォルダを開く

モデムのご利用には、「Open Transport」のバージョンが2.7以上であることが必要です。ここでは、インストールされている「Open Transport」のバージョンの確認を行います。MacOS 9.1を起動して、ハードディスクアイコンをダブルクリックします。「システムフォルダ」をダブルクリックして開き、「機能拡張」フォルダをダブルクリックします。

2. Open Transportの情報を確認

「機能拡張」フォルダの中から「Open Transport」という書類をクリックし、メニューバーから「ファイル」→「情報を見る」→「一般情報」を選択します。

3. Open Transportのバージョンを確認

Open Transportのバージョンが2.7以上であることを確認します。確認が終わったら画面を閉じます。

Point Open Transportのバージョンが2.7以上でない場合は、アップルコンピュータのホームページでアップデータをダウンロードしてOSあるいはOpen Transportをアップデートしてください。

4. コントロールパネルを開く

「アップル」メニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を選択して、「TCP/IP」設定画面を開きます。

Point 「アップルメニューオプション」で「サブメニュー」の機能をオフにしている場合は、アップルメニューから「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの画面が表示されてから「TCP/IP」をダブルクリックします。

5. 経由先の選択

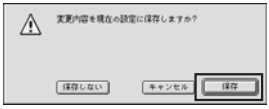
「TCP/IP」設定画面の「経由先」リストで、「Ethernet」を選択します。

6. 設定方法の選択

「TCP/IP」設定画面の「設定方法」リストより、「DHCPサーバを参照」を選択します。

7.「TCP/IP」設定画面を閉じる

ネットワークの設定が終了したら、「TCP/IP」設定画面を閉じます。このとき、「変更内容を現在の設定に保存しますか？」というメッセージが表示された場合、「保存」を選択します。



Mac 9.1 ▶ p.36

設定の確認 MacOS 9.1の場合

MacOS 9.1でパソコンとモデムが正しく接続されているかどうか確認したい場合には以下のようにしてください。

1. コントロールパネルを開く

「アップル」メニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を選択して、「TCP/IP」設定画面を開きます。

2. ネットワークの設定確認

ネットワークの設定が設定前と変更されていることを確認します。確認する個所は以下のとおりです。

IPアドレス
サブネットマスク
ルータアドレス

これらのアドレスはすべて自動で設定されます。

IPアドレスが「218.…」「219.…」「220.…」「221.…」あるいは「43.…」で始まっていれば正常です。

3. 「TCP/IP」設定画面を閉じる

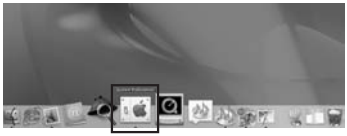
ネットワークの設定が終了したら、「TCP/IP」設定画面を閉じます。このとき、「変更内容を現在の設定に保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、「保存しない」を選択します。

もし、IPアドレスやデフォルトゲートウェイが正常に設定されていない場合は、パソコンの電源を切ってから電源やケーブル等の接続を再確認してください。

パソコンの設定方法 MacOS Xの場合

1. システム環境設定を開く

Dock上の「System Preferences」をクリックして、「システム環境設定」を開きます。



Point MacOS Xの標準状態では、Dockに「システム環境設定」のアイコンが登録されています。Dockから削除してしまった場合は、「アップル」メニューから「システム環境設定」を選択します。

2. ネットワークの設定項目を開く

「システム環境設定」画面から「ネットワーク」をクリックします。

3. ネットワークの種類の選択

「ネットワーク」画面のタブの上部にある「設定」リストより、「内蔵Ethernet」を選択します。

4. TCP/IP設定

「TCP/IP」タブをクリックし、TCP/IPの設定画面を表示します。設定内容が以下のようになっていることを確認します。

「設定」：「DHCP サーバを参照」
「DHCPクライアントID」：空白
「ドメインネームサーバ」：空白
「検索ドメイン」：空白

5. PPPoEのチェックを外す

「PPPoE」タブをクリックし、PPPoEの設定画面を表示します。BBテクノロジーの提供するADSLサービスではPPPoEを使用しないので、チェックマークが付いている場合はチェックを外します。

6. AppleTalkのチェックを外す

「AppleTalk」タブをクリックし、AppleTalkの設定画面を表示します。「AppleTalk使用」にチェックマークが付いている場合は、チェックを外します。

7. プロキシの設定

「プロキシ」タブをクリックし、プロキシの設定画面を表示します。ここでチェックマークが付いている場合は、すべてのチェックを外します。

8. ネットワーク設定を保存する

ネットワークの設定が終了し、変更した部分があった場合は、右下の「保存」をクリックします。また、「保存」をクリックしないでほかの設定を行う場合、「設定の変更点を保存しますか？」というメッセージが表示されるので、「保存する」をクリックします。

9. システム環境設定を終了する

メニューバーの「システム環境設定」→「システム環境設定を終了」を選択して終了します。

設定の確認 MacOS Xの場合

MacOS Xでパソコンとモデムが正しく接続されているかどうか確認したい場合には次のようにしてください。

1. システム環境設定を開く

Dock上の「System Preferences」をクリックして、「システム環境設定」を開きます。「システム環境設定」画面から「ネットワーク」をクリックします。

2. ネットワークの種類の選択

タブの上部にある「設定」リストより、「内蔵Ethernet」を選択します。

3. TCP/IPの確認

「TCP/IP」タブをクリックしてTCP/IPの設定画面を表示し、IPアドレスが割り当てられていることを確認します。

IPアドレスが「218.…」「219.…」「220.…」「221.…」あるいは「43.…」で始まっていれば正常です。

4. システム環境設定を終了

メニューバーの「システム環境設定」→「システム環境設定を終了」を選択して終了します。

もし、IPアドレスやデフォルトゲートウェイが正常に設定されていない場合は、パソコンの電源を切ってから電源やケーブル等の接続を再確認してください。

Mac X ▶ p.41

インターネット接続確認

Windows 98/Me/2000/XPの場合

①デスクトップの「Internet Explorer」をクリックまたはダブルクリックしてInternet Explorerを起動してください。
②Internet Explorerの「アドレス」欄に「http://info.softbank.jp/」とURLを入力して「移動」をクリックします。
③ホームページが表示されたら接続はOKです。

Point Internet Explorerを初めて起動したとき、「インターネット接続ウィザード」というダイアログが起動することがあります。これは、ダイヤルアップ接続の接続先を設定するためのものですから、ここでは「キャンセル」をクリックしてください。

MacOS 9.1/Xの場合

①MacOS 9.1の場合はデスクトップの「WWWブラウザ」をダブルクリック(ボタン表示の場合はシングルクリック)、MacOS Xの場合はDock上に登録されている「Internet Explorer」をクリックして、Internet Explorerを起動します。
②Internet Explorerの「アドレス」欄に「http://info.softbank.jp/」とURLを入力し、「移動」をクリックします。
③ホームページが表示されたら接続はOKです。

メールの設定はあとからでもできます(「インターネット接続ウィザード」の詳しい設定手順は、Internet Explorer の解説書などをご参照ください)。

Win 98/Me/2000/XP ▶ p.42 Mac 9.1/X ▶ 設定完了

ダイヤルアップからの設定変更 Windows 98/Me/2000/XPの場合

これまでダイヤルアップ接続でインターネットをご利用されていたお客様は、BBテクノロジーの提供するADSLサービスをお使いいただくために、必ず次の設定を行ってください。

Point これまで通りのダイヤルアップ接続を続けると、ご利用のサービス各社でのダイヤルアップ料金が発生します。各社ダイヤルアップをご利用中に発生した料金につきましては、BBテクノロジーでは負担いたしません。ダイヤルアップ接続・サービスに関するお問い合わせにつきましては、ご利用中のプロバイダへお問い合わせくださいますようお願いいたします。

1. Internet Explorerを起動する

Internet Explorerを起動します。方法は41ページの「インターネット接続確認」をご参照ください。

2. インターネットオプションを開く

ツールバーから「インターネットオプション」を選択します。

3. 「接続」で「ダイヤルしない」を選択する

「インターネットのプロパティ」が開いたら「接続」タブをクリックして画面を切り替えます。「ダイヤルしない」にチェックを付け、「OK」をクリックしてください。

4. Internet Explorerを再起動する

変更した設定を反映するため、Internet Explorerを再起動してください。

 ▶ p.43

Outlook Expressの設定確認

Windows 98/Me/2000/XP共通

メールの送受信を行う際に「ダイヤルアップ接続」画面が表示される場合は、次の手順に従ってOutlook Expressの設定を確認してみてください。

1.「ダイヤルアップの接続」をキャンセルする

メールの送受信時に「ダイヤルアップの接続」画面が表示される場合は、「キャンセル」をクリックします。

2. Outlook Expressの「アカウント」を開く

Outlook Expressをスタートメニューから呼び出し、Outlook Expressの画面を表示します。次に「ツール」→「アカウント」をクリックします。

3. インターネットアカウントの設定から「メール」を選択

「インターネットアカウント」設定画面で「メール」タブをクリックし、「プロパティ」をクリックします。

4.「ローカル エリア ネットワーク(LAN)」を選択

プロパティ画面から「接続」タブを選択し、中央の画面の右端にある▼をクリックして「ローカル　エリア ネットワーク(LAN)」を選択したあと「OK」をクリックしてください。

Point メールアドレスやアカウント、パスワードなどの情報は、ご利用のプロバイダより通知されたものを設定してください。

よくお問い合わせのある項目とその答えをまとめました。わからないことが合った場合には、まずこちらをご覧ください。

モデムの再起動

インターネットの接続がうまくいかない場合は、モデムを再起動することで問題が解決することがあります。

パソコンの電源を切ってから、モデムの電源アダプタをいったん抜きます。20分以上経ってから、再度電源を入れなおしてください。パソコンはそのあとで起動してください。

Q1 インターネットに接続できない

A インターネットに接続できない状態には、さまざまな原因が考えられ、それぞれ解決法が異なります。ここでは、インターネットに接続できない場合の、主な原因と解決法を「チェックポイント」という形でまとめました。それぞれのチェックポイントをみて、どこが原因となっているのかを確認してください。

チェックポイント❶ 通信機器の接続

通信機器が正しく接続されていない場合、「電話にノイズが入る」「ADSLの通信が不安定になる」「ADSLでの接続ができなくなる」などの原因になります。接続方法については、ADSLモデムをご利用の場合は11ページ、コンボモデムをご利用の場合は15ページでご確認ください。

チェックポイント❷ 宅内に導入されているシステムやサービス

次のようなシステムが導入されている場合は、そのままではADSLが利用できないか、あるいは通信が不安定になる場合があります。

- ドアホンと接続した電話機
- ホームテレホン
- ビジネスホン
- CATV電話
- 電話回線を使用するオートロック
- その他電話回線を利用するサービス

※上記の各サービスの他、マンションなどの集合住宅の場合、集合住宅全体の電話線の引き込み口にLCR用のアダプタなど何らかの機器が接続されている場合があります。このような場合にも通信が不安定な状態になる可能性があります。

お住まいの住宅管理会社や各サービス会社に現状の状態でADSLが利用可能かどうかご確認ください。宅内の電話配線の変更につきましては、NTTまたは、電話工事会社にご相談ください。

また、ノーリンギングサービス（ガス・水道の遠隔検針など）や警備会社のセキュリティシステムをご利用の方は、ADSLのご利用にあたっては対応工事が必要になりますので、ガス・水道など事業者にお問い合わせください。

チェックポイント❸ LEDランプの点灯状態

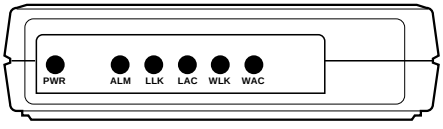
通信機器が正しく接続されているのにインターネットにつながらない場合は、モデムのLEDランプの点灯状態から、通信状態を確認します。※図はADSLモデム

- **LEDランプの点灯状態は、ADSLモデム／コンボモデムとも共通です。**
- **コンボモデムは、製造時期によってLEDランプが日本語表記になっているものもあります。表記が異なるだけで、英文字表記のLEDランプと機能は同一です。**
  LEDランプが日本語表記になっているコンボモデムをお使いの場合は、お手数ですが、次の表のように各ランプ名称を置き換えてお読みください。

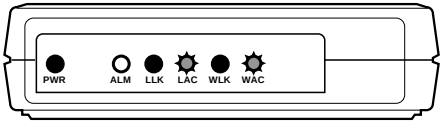
本冊子での記載	LEDの日本語表記	本冊子での記載	LEDの日本語表記
PWR →	電源	WLK →	ADSL接続可
ALM →	アラーム	WAC →	ADSL接続中
LLK →	PC接続中	VAC →	BBフォン利用中
LAC →	データ通信中	VRY →	BBフォン接続可

通信状態の確認方法

❶通信機器を接続し、モデムの電源を入れます。
❷モデムの電源投入後30秒間は、すべてのLEDランプが点灯します。



❸電源投入後1～2分程度で「PWR」、「LLK」、「WLK」(※注) の各ランプが点灯すれば正常です。このとき、データの送信があると「LAC」、「WAC」ランプが点滅します。



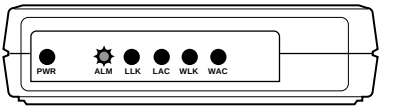
Point 点灯状態が正常にも関わらず、インターネットがつながらない場合は、パソコンのネットワーク設定の問題が考えられます。22ページの「ネットワークの設定」を参考に、ネットワークの設定をご確認ください。

ランプの点灯状態が正常でない場合

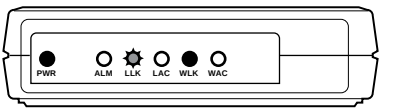
ランプの状態から原因を診断できます。次のA～Dのうちご利用の状態に合ったものを選び、それぞれの解決方法をお試しください。

○：消灯　●：点灯　☀：点滅

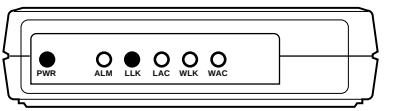
A ALMランプが点灯または点滅している場合 …… **このページ下へ**

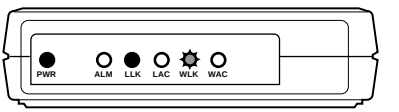


B 「LLK」ランプが点滅している場合 …… **49ページへ**

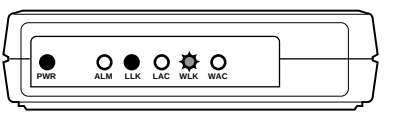


C 「WLK」ランプが消灯、または1秒ごとに点滅している場合 …… **49ページへ**





D 「WLK」ランプがすばやい点滅、または不定期に消灯・点滅を繰り返す場合 …… **50ページへ**



A 「ALM」ランプが点灯または点滅している場合

いったんモデムの再起動を行ってください。
モデムを再起動しても「ALM」ランプが点灯または点滅する場合は、SoftBank BBテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

B 「LLK」ランプが点滅している場合

原因 モデムとパソコンの間の通信が正常に行われていません。

1 モデムとパソコンを接続しているLANケーブルが、それぞれきちんと差し込まれているかご確認のうえ、モデムを再起動してください。

2 ご利用のパソコン、LANアダプタ（またはLANカード）のマニュアルをご参照のうえ、LANアダプタ（またはLANカード）が正しく認識されていることをご確認ください。

3 22ページの「ネットワークの設定」を参考に、パソコンのネットワークの設定が正しくされていることをご確認ください。

C 「WLK」ランプが消灯、または1秒ごとに点滅している場合

原因 ADSL信号を認識できない状態です。

電話局内工事が完了していない場合は、「WLK」ランプは点灯または消灯します。「BB会員サービス」ページ（http://info.softbank.jp/member/）より、お客様の工事状況（ステータス）をご覧いただき、「NTT局内工事状況」が「NTT局内工事完了」になっているか、ご確認ください。「NTT局内工事完了」になっていない場合には、工事完了までお待ちください。

なお、「NTT局内工事完了」になっているにもかかわらず、「WLK」ランプが消灯、または点滅している場合には、SoftBank BB テクニカルサポートセンターまでお問い合わせください。

お申し込み状況（ステータス）については0120-981-488（通話料無料）でもご確認いただけます。また、メールでお問い合わせいただく際には、help@sbb-support.jp宛てにお願いいたします。

D 「WLK」ランプがすばやい点滅、または不定期に消灯・点滅を繰り返す場合

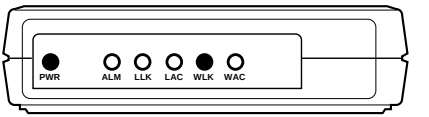
原因 ADSL信号がモデムに届くまでに弱まっています。

モジュラーケーブルの経路、モデムの設置場所を変更してみてください。テレビやステレオなどの電化製品は、ADSL信号を弱める原因となるノイズを発生しやすいので、配線の経路やモデムの設置場所からできるだけ離してください。また、市販のモジュラーケーブルをご利用の場合は、なるべく短いものをご使用ください。

また、モジュラージャックが宅内に2箇所以上ある場合、宅内の構造によりADSL信号が届きやすいものと届きにくいものが存在することがあります。別のモジュラージャックでも接続を試してみてください。

接続可能な回線の確認方法

1. 宅内にあるモジュラージャックにつながっている電話機（またはFAX機）、モデムをすべて外してください。
2. モデムをモジュラージャックに接続し、電源アダプタをつないで「WLK」ランプが点灯するか確認してください。



▶ **すべてのモジュラージャックで「WLK」ランプが点灯**
ご利用しやすい場所のモジュラージャックに電話機などを接続してください。

▶ **特定のモジュラージャックのみで「WLK」ランプが点灯**
そのモジュラージャックにモデムを接続してください。

チェックポイント❹ 電話中しかインターネットできない

原因 電話機（またはFAX機）の接続方法や宅内環境に原因がある可能性があります。

お客様宅内で次のようなシステムやサービスを利用されている場合は、ADSLが利用できない、あるいはADSLの通信が不安定になることがあります。

- 回線自動選択装置（ACR／LCR）
- その他電話回線を利用するサービス

そのほか、マンションなどの集合住宅の場合は、マンション全体の電話線の引き込み口にLCR用のアダプタなど何らかの機器が接続されていることがあります。このような場合にも、電話中のみ接続できるというような不安定な状態になる可能性があります。このような場合は、マンションの管理事業者などにご確認ください。

また、ノーリンギングサービス（ガス・水道の遠隔検針等）や警備保障をご利用の方は、ADSLやBBフォンサービスのご利用にあたって対応工事が必要になる場合があります。詳しくはそれぞれの事業者にお問い合わせください。

※「回線切替器」「電話自動転換器」をご利用の場合は、これを取り外してください。

Q2 突然インターネットに接続できなくなった

A まずは、ケーブルが抜けてしまったりしていないか、通信機器の接続状態をご確認ください。配線に問題がないにもかかわらず、インターネットに接続できない場合は、いったんモデムを再起動してから、パソコンを起動します。モデムの「LLK」ランプの点灯を確認してから、再度インターネットに接続してみてください。

Q3 電話がかかってくると回線が切断される

A 電話回線でADSLサービスをご利用の場合、電話機能とADSLサービスのインターネットへの接続は、通常同時に使えます。しかしADSL信号が弱いと、電話着信時にインターネットへの接続が切断および速度が低下する現象が発生する場合があります。

お客様の回線に利用されている保安器の形式が「6PT」というものの場合、保安器の取り換え工事によって状況が改善することもあります。

※保安器を交換される場合は、NTT工事費用がかかります。なお、工事の際、保安器が問題のあるもの以外であることが判明しましても、工事は行われ、料金が発生いたします。また、保安器の交換を行っても問題が改善されない場合も料金は発生しますのであらかじめご了承ください。

Q4 通信速度が遅い

A まずは、通信機器が正しく接続されていることをご確認ください。
正しく接続されているにも関わらず、通信速度が遅く感じられる場合は、以下のような原因が考えられます。

■46ページの チェックポイント❷ のようなシステムを利用されている場合は、「ADSLが利用できない」、あるいは「ADSLの通信が不安定になる」場合があります。

■テレビやステレオなどの電化製品は、ADSL信号を弱める原因となるノイズを発生しやすいので、配線の経路やモデムの設置場所からできるだけ離してください。

Q5 電話やFAXをたくさん使っているような状況でも使えるの?

A 電話機を複数台ご利用の場合は、以下のいずれかの方法にてご利用ください。
※ADSLモデム／コンボモデム8Mの場合

1. 電話回線分岐点にスプリッタを接続

電話回線を分岐する手前（電話局に近い側）にスプリッタを挿入し、スプリッタの「PHONE」ポートから「音声通話用」回線を分岐し、また「MODEM」ポートから「ADSL接続用」回線として分岐してください。

2. 宅内の1つのモジュラージャックより電話回線を分岐

スプリッタを接続しない方のモジュラージャックに、電話機やFAX機などを接続することはできません。電話機、FAX機はすべてモジュラージャックへの直接接続ではなく、スプリッタを経由しての接続となります。電話機やFAXを複数台接続する場合は、スプリッタの「PHONE」ポートから宅内側で分岐して接続してください。

3. 複数のスプリッタを使用する

モデムとスプリッタは1契約につき1セットのみ提供いたしております。しかし、宅内での配線が難しいお客様につきましては、複数のスプリッタをそれぞれのモジュラージャックに接続し、スプリッタ経由で電話機、モデムなどを接続してご利用いただくことができます。
※スプリッタが複数必要な方は、ValuMore!（バリューモア http://valumore.jp/）でもご購入いただけます。

Q6 モデムが熱くなっているけど、大丈夫?

A モデムは、精密機器ですので、ある程度熱をもつ場合があります。これらの接続機器は、風通しのよい涼しい場所に設置し、上に物をのせたり、布やレースで覆ったりしないようご注意願います。また、風通しが悪いために熱がこもって火災や火傷の原因となるおそれがありますのでじゅうたん、カーペット（床暖房含む）、布団などの上では利用しないでください。新品のモデムの場合、ゴム・プラスチック製品、電器機器、高級家具等の上に置いてご利用されるとゴムの跡がつく場合がありますので、それらの上に置かないでください。

Q7 LANケーブルのコネクタがパソコン側のコネクタと合わない

A パソコン側の差し込み口がLANケーブルよりひと回り小さくて入らない場合、そのコネクタは電話線（モジュラーケーブル）を接続するダイヤルアップ用アナログモデムのポートです。パソコン側のLANポートに接続してください。

LANポートはもともとパソコンに搭載されている場合もありますが、搭載されていない場合は、別途LANアダプタ（LANカード）を追加していただく必要があります。パソコンにLANポートが搭載されていない場合は、お客様ご自身で別途LANアダプタ（LANカード）をご用意いただき、パソコンに接続してください。LANアダプタをご用意される場合は、1.「100Base-TX」対応であること　2. お使いのパソコンに対応していることの2点をご確認ください。

※LANアダプタは、電機店などで販売されています。また、「ValuMore！（バリューモア）」（http://valumore.jp/）でもご購入いただけます。

Q8 電話にノイズが入ってしまう

A

■通信機器が、正しく接続されているかどうかご確認ください。特にADSLモデム／コンボモデム8Mをご利用の場合には、電話機やFAX機など、モデムをご利用になる以前はモジュラージャックに直接接続していた機器は、すべてスプリッタ経由で接続する必要があります。電話機などの機器は、すべてスプリッタの「PHONE」ポートに接続してください。

※複数の電話機をご利用の場合は、スプリッタの「PHONE」ポートからさらに分配器などを使ってモジュラーケーブルを分岐して接続します。宅内に複数のモジュラージャックがある場合も、モデムを接続した以外のモジュラージャックに、直接電話機などを接続しないでください。これもノイズの原因となる場合があります。

■宅内に複数のモジュラージャックがある場合は、別のモジュラージャックに接続してください。

■モデム周辺の環境によって、影響を受ける場合があります。ノイズ発生の要因となる可能性のある電化製品を機器やケーブルからできるだけ離してください。また、モジュラーケーブルが長くなればなるほど、ノイズが増加します。市販のモジュラーケーブルをご利用の場合には、できるだけ短いものをお使いください。

Q9 他のプロバイダのメールアドレスでメールが送信できない

A

他のプロバイダのサービスが、アクセスポイントやアクセスの仕方を問わず通常のインターネット上から利用できるのであれば、そのサービスを併用できます。それらのサービスを解約されていないか、確認してください。なお、プロバイダによっては自社のアクセスポイント以外からの接続時には、メールサービスやホームページのアップロードに制限を設けている場合があります。また、インターネット上からのアクセスが可能な場合でも、各プロバイダの提供するサービスにより設定方法が異なります。詳細については、ご利用のプロバイダまでお問い合わせください。

※プロバイダによっては「POP before SMTP」と呼ばれる仕組みによって自社のアクセスポイント以外からのメールの送信・受信に対応している場合があります。その場合はメールを受信（実際に受信するメールはなくてもよい）してから一定時間内であればメールの送信が可能となります。Windowsで利用されているOutlook Expressでは、「送受信」をクリックすると送信→受信という順番で処理されるため送信時にエラーが発生しますが、プロバイダが「POP before SMTP」に対応している場合は、もう一度「送受信」をクリックすれば送信できるようになります。

Q10 ルーターを接続しても大丈夫?

A 一般的にブロードバンドルーターと呼ばれている機器であれば、ほとんどの場合、複数台の接続が可能です。ルーターによる複数台接続は、ルーターとお使いのパソコンの環境との相性、ルーターのファームウェアに依存する問題、接続台数などお客様の環境に依存する部分が多々あるため、環境構築、設定に関してはお客様ご自身で行っていただく必要があります。また無線LAN機能搭載のルーターをご利用で、無線LANの環境を構築される場合も同様です。

※ブロードバンドルーター、無線LAN機能搭載ルーターに関して、詳しくは各メーカーにお問い合わせください。

Q11 インターネットの認証プロトコルはどうなっているの?

A PPPはダイヤルアップ接続において、ユーザーIDとパスワードを用いて認証する際に用いられる一般的なプロトコルです。PPPoEは、PPPをイーサネット上に実現するためのプロトコルです。BBテクノロジーの提供するADSLサービスではこの方式に代表されるPPP系プロトコルは用いていません。インターネット接続時に、モデムがサーバーより直接IPアドレスを取得します。

Q12 「IPアドレスが競合している」というメッセージが表示される

A 「IPアドレス xxx.xxx.xxx.xxxはハードウエアのアドレスがXX：XX：XX：XX：XX：XXに設定してあるシステムと競合していることが検出されました」というメッセージが表示される場合は、45ページの手順に従ってモデムを再起動してからパソコンを起動してください。

Q14 困ったときはどうすればよいの？

A　ホームページ（http://info.softbank.co.jp/）で各種サービスやサポートの情報を掲載しています。ご覧ください。

　こちらをご覧いただいても疑問が解決しない場合には、メール／お電話にてお問い合わせいただくことが可能です。詳しくは別紙「ADSLサービス お問い合わせ先」をご覧ください。

お問い合わせ時必携!
登録情報一覧表

登録した情報を、まとめてご記入ください。必要な情報がひと目でわかるので、電話やメールでお問い合わせいただく際にご参照いただくととても便利です。
また、ご自身が登録情報をお忘れになった場合の備えとしても、ぜひご活用ください。

（お問い合わせ先は、別紙「ADSLサービス お問い合わせ先」をご覧ください。）

まずは電源を入れ直してみてください。
インターネット接続のご利用がうまくいかない場合は、いったんモデムなどの接続機器の電源アダプタを抜き、再度電源を入れ直してみてください。

お申し込みの際の登録情報	お申し込みの際に申込書やウェッブからご登録いただいた情報をお書きください。
お申し込み者名	
お申し込み電話番号	（　　）　　—
お申し込み住所	

ご利用開始時の登録情報	ご利用開始時にお知らせした情報をお書きください。 ご利用開始日は「サービスご利用開始のご案内」（メール）、カスタマーIDは「スターターパック」（封書）でご確認いただけます。
ご利用開始日	
カスタマーID	

メールの情報	メールの設定についての情報をお書きください。
メールアドレス	
アカウント	
メール受信（POP3）サーバー	
メール送信（SMTP）サーバー	

モデムの製品情報	モデム本体の裏面に貼付のシール記載の情報をお書きください。 MAC アドレスは12 桁の英数字、シリアルナンバーは「S/N」につづく7 桁の英数字です。　※シリアルナンバーの桁数は変わる場合もあります。
MAC アドレス	
シリアルナンバー	S/N

その他の情報（自由記入欄）	上記のほか、メモしておきたい情報などがありましたら、ご自由にご記入ください。

■ その他、お問い合わせの際にご用意いただくと便利なもの

- スターターパック（封書）
- （お送りした封書・ハガキ、メールの内容に関するご質問の場合）該当の封書・ハガキ、メール
- （キャンペーンに関するご質問の場合）そのキャンペーンをお知りになったチラシなど
- 「セットアップ・ガイド」（本冊子）
- お使いのパソコンの取扱説明書 など

■ADSLモデムの仕様

＜ADSLモデムの主な仕様＞

外寸	133（W）×188（D）×38（H）mm
質量	約330g
電源	AC-ACアダプタ
入力	AC100V（50/60 Hz）
出力	AC18V/0.6A
最大消費電力	6.2W
動作環境	周囲温度：5～40℃／周囲湿度：15～85％ ※ただし結露なきこと

＜通信に関する仕様一覧＞

	WAN		LAN	
準拠規格	ANSI T1.413 Issue 2		IEEE802.3	
	ITU G.992.1（G.dmt Annex A）			
	ITU G.992.2（G.lite Annex A）			
	ITU G.994（G.hs）			
伝送速度	8Mbps/1Mbps		10Mbps	
	WANポート	RJ-11（1ポート）	LANポート	RJ-45（1ポート）

■コンボモデムの仕様

＜コンボモデムの主な仕様＞

外寸	203（W）×140（D）×44.1（H）mm
質量	＜8M＞約470g ／＜12M＞約480 g
電源	AC/ACアダプタ
入力	AC100V（50/60 Hz）
出力	AC18V/0.8A
最大消費電力	12.8W
動作環境	周囲温度：5～40℃／周囲湿度：15～85％ ※ただし結露なきこと

＜通信に関する仕様一覧＞

	WAN		LAN	
準拠規格	ANSI T1.413 Issue 2		IEEE 802.3/IEEE 802.3i/ IEEE 802.3u/IEEE802.3x	
	ITU-T G.992.1（G.dmt） Annex A			
	ITU-T G.992.2（G.lite） Annex A			
	ITU-T G.992.4（G.hs）			
伝送速度	＜コンボモデム8M＞ 8Mbps/1Mbps		10/100Mbps（自動認識）	
	＜コンボモデム12M＞12Mbps/1Mbps			
	WANポート	RJ-11（1ポート）	LANポート	RJ-45（1ポート）

YYM100511

2005年11月22日発行

●本冊子の一部または全部を無断複写・転載することを禁じます。
●本冊子の製品に対する記述は情報を提供する目的で書かれたもので、保証するものではありません。

S07HNM05B0D